



人的交流プロジェクトチーム発行
R6・3号
令和6年 6月 19日
小田原支援学校 支援連携部

題字:小田原支援学校 高等部 2年生

インクルーシブ教育へ向けて

すべての子どもが気持ちよく学べる環境づくり ～特別支援学校の支援の工夫～

神奈川県立小田原支援学校では、知的障害教育部門と肢体不自由教育部門の小学部から高等部までの子どもたちが、県西2市8町から通ってきています。

工夫その① 授業の工夫・みんながわかりやすい進め方

例) その日の流れを目で見える形で示します。先の見通しを持つことが、安心につながります。口頭だけだと忘れてたり、聞き漏らしたりすることがあるので、掲示して、その都度確認できるようにしています。

例) 授業の見通しが持てるように、授業の流れや内容を年間を通してパターン化しています。



工夫その② 個への配慮・苦手を把握し、代替案を考える

例) ことばでのコミュニケーションが難しい児童には一人一人に合わせた絵カードや手話などのコミュニケーションツールを活用します。



工夫その③ 教科を合わせた授業

例) 調理実習では、材料の買い物(社会)、計量(算数)、野菜のこと(理科)、調理(家庭科)というように、一つの活動の中に、いろいろな教科の活動を取り入れたりします。

支援が必要な子への工夫は全員に対して優しいことなので、取り入れた方が全体の学習効果が高まるといわれます

小田原支援学校と足柄小学校で

スヌーズレンの取り組みがはじまりました

スヌーズレン(Snoozelen)とは、「クンクンにおいを嗅ぐ」「居眠りをする」の語源から派生し、オランダからヨーロッパ等に広がっていきました。意図的に設計された部屋の中で光と音の要素、香り音楽の使用は感覚的で魅力的な世界へと導かれ、リラックス効果と活性的な効果の両方が知られ

ています。部屋を暗くして、ブラックライトの光に発光する蛍光グッズなど感覚刺激機材を使い、幻想的な空間で子どもたちの心が落ち着き、好きな感覚で楽しいひと時を過ごす事ができ、またその空間の中では集中力が高まる事が分かっています。受け身的で刺激のない世界を変えようと重度知的障害者向けレクリエーションとしてはじまったスヌーズレンは、今では世界中で幼児から高齢者まで障害の有無に関係なく治療や教育、レジャーとしても活用されています。

小田原支援学校では、知的障害教育部門の高等部の教室棟にセンサリールームとして、落ち着ける部屋を作ったり、移動式スヌーズレンの装置を活用して肢体不自由教育部門、知的障害教育部門の小学部から高等部までの子どもたちが、教育の中で活用しています。



小型プロジェクター搭載の移動式スヌーズレン、汽笛、バブルチューブから煙も出ます



お手軽スヌーズレン：天使の羽根
色々な色に点滅します



コスインターナショナルの感覚グッズ、小田原支援学校の夏の公開研修会でも展示します



フィルノットのコードレススヌーズレン：ハンディライン



お手軽スヌーズレン：ボール
小田原支援学校でも大人気

小田原支援学校ではスヌーズレンが多くの子どもたちの主体的な活動として効果があることから、足柄小学校でも、「ほかほかルーム」でスヌーズレンが体験できるように東洋大学の嶺教授の協力のもと、スヌーズレンルームとしても活用できるよう環境を整えました。

インクルーシブ教育へ向けて、多様な子どもたちへ多様な支援を提供していくための取り組みの一つとして、ぜひ機会がありましたらのぞいてみてください。



足柄小学校でのブラックライト体験
スヌーズレンを普及する会より、物品を借用して、沢山の子どもたちが楽しみました